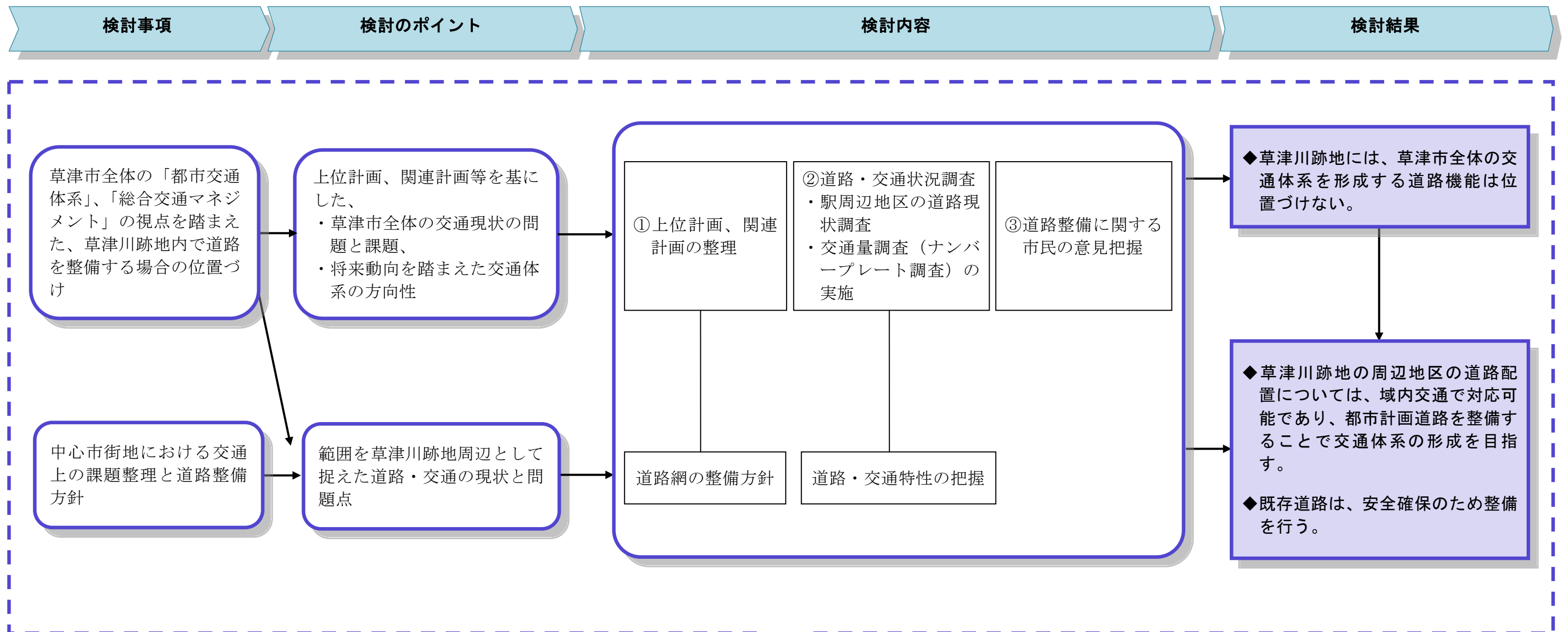


## 第2回 草津市 草津川跡地利用基本計画検討委員会資料

### 目 次

- 1. 区間5の道路整備の検討 ..... 1
- 2. 「都市交通体系」「交合交通マネジメント」や  
道路状況による草津川跡地道路の位置づけ ..... 2
- 3. 草津川跡地におけるトータルデザインの考え方 ..... 3
- 4. 景観デザインのコンセプト ..... 4
- 5. コミュニティーデザインのコンセプト ..... 5
- 6. 防災・都市環境デザインのコンセプト ..... 6

## 区間5の道路整備の検討



トータルデザインにおける  
空間整備からの道路（通路）の検討

1. 上位計画・関連計画における草津川跡地内道路の位置づけ

①全体道路網の特徴

- ・都市計画幹線道路は、格子状の道路網を構成
- ・JRが市街を東西に分断しており、自動車交通の東西連絡は幹線道路が頼りである。

②道路計画の施策

- ・現計画以外に新たな都市計画道路の計画はない。
- (H18.3 都市マスタープラン、H22.3 草津市都市計画道路見直し検討業務)
- ・交通対策として、現道の改良を行っていく。



2. 道路・交通の現状

(1) 草津川跡地周辺道路・交通の現状

- ・現状は住宅や商業地であるため、1車線道路や一方通行や車両進入禁止（時間制限）など交通規制が多いが、特に際だった渋滞や混雑は発生していない。
- ・JR琵琶湖線～国道1号間は堤防道路が連続していないため、車両が駅周辺の商店街道路に入り込んでいる。
- ・幹線道路には歩道が整備されているが、歩道として未整備が多い。多くは、路肩を歩道として活用している。学校周辺は、スクールゾーンとして通学路に指定されている路線、区間が多い。
- ・草津川跡地の堤防は連続した歩道が整備され、散歩やサイクリングなど、市民の憩いの場として利用している。

(2) JR琵琶湖線～国道1号間の交通需要

JR琵琶湖線付近の堤防道路の現況交通量は1,610台/日（1,258台/12h、昼夜率1.28）、ナンバープレート調査によるJR琵琶湖線～国道1号間の交通需要は330台/日（256台/12h、昼夜率1.28）となる。将来の伸び率（H17センサス、走行台キロより）1.238を考慮してもJR琵琶湖線～国道1号間の交通量は400台/日と少ない。

3. 草津川跡地の道路に関する市民等の意見

道路整備に対して賛否両論がある

- ・周辺道路の交通対策として堤防道路を整備して欲しい。
- ・跡地に賑わいをもたらすためには、道路整備が必要である。
- ・道路を整備することで新たな交通を誘発する。沿線の騒音や環境を悪化するので反対である。
- ・自然豊かな堤防に車は不用。堤防利用者の安全性が損なわれる。
- ・中心市街地を分断する道路は好ましくない。

<道路現状のまとめ>

- 市域全体の道路網は、国道1号や外環状線、内環状線などの都市計画道路で構築し、将来の市街地動向や交通処理に対応することとしている。草津川跡地を幹線道路として位置づける必要はない。
- 市内共通の歩車分離等の課題はあるが、都市計画道路の整備や既存道路を改良することで、地区の利便性、安全性は高められる。

草津川跡地に道路を整備する場合は、通過交通機能の道路ではなく、にぎわいやアクセス性を高める機能が必要である。

<草津川跡地基本構想の4つの基本方針>

**緑 歴史 防災 交通** の4つの機能を基本として、  
まちと暮らしにうるおいを導く緑豊かで魅力ある空間を創出していく

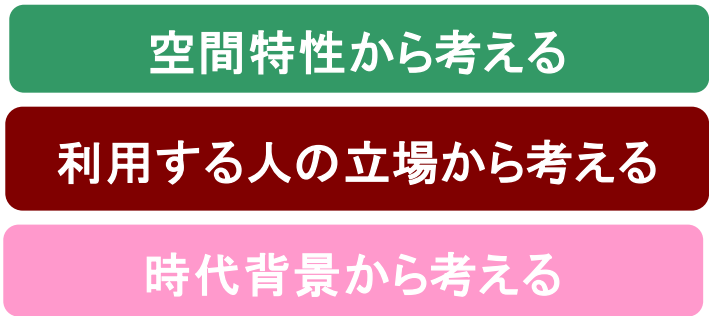
- 緑** 貴重な天井川の自然環境との調和に配慮しながら、都市の個性・魅力を創出し、市民の生活にうるおいと安らぎを与える役割を果たしていく
- 歴史** 天井川・桜・旧街道など市民に親しみのある歴史的資源を積極的に保全・活用し、草津の魅力向上させる役割を果たしていく
- 防災** 防災拠点の充実など、都市の防災機能を向上させる役割を果たしていく
- 交通** 東西を連続的に移動できる動線を確保し、生活の利便性や草津川跡地利用の機能、災害時の救援活動などを向上させる役割を果たしていく

<基本方針からの展開>

4つの基本機能



<トータルデザインの計画理念・基本コンセプト確立のための三要素>



計画の基本理念<トータルデザインのコンセプト>

委員会で決める

(例) 過去と未来をつなぐ緑の架け橋「○○○○○○○○」

<トータルデザインの考え方>

空間特性から考える

景観デザイン

- 草津川跡地は都市部から琵琶湖までを繋ぐ貴重な**緑の財産**と言える。
- 草津駅周辺や商店街、草津宿本陣等の歴史的資産に囲まれた都市部においては、普段の喧騒から離れ、リフレッシュするための**憩いのオアシス**と呼ぶにふさわしい空間特性を有している。また琵琶湖に近づくにつれ、身近に**農園活動や自然観察・体験**等の自然環境に触れたり、余暇活動を楽しめる空間特性を有している。
- さらには、江戸時代中頃からと言われる長い年月をかけて培われた**天井川の持つ独特の地形、歴史**にも、**過去と現在、そして未来を繋ぐ**時空の空間特性を有している。
- 草津川跡地は、草津市の次世代に向けた**都市構造、都市アイデンティティ**を構築しうる存在であり、それらを今後末永く引き継いでいけるよう表現する必要がある。

利用する人の立場から考える

コミュニティデザイン

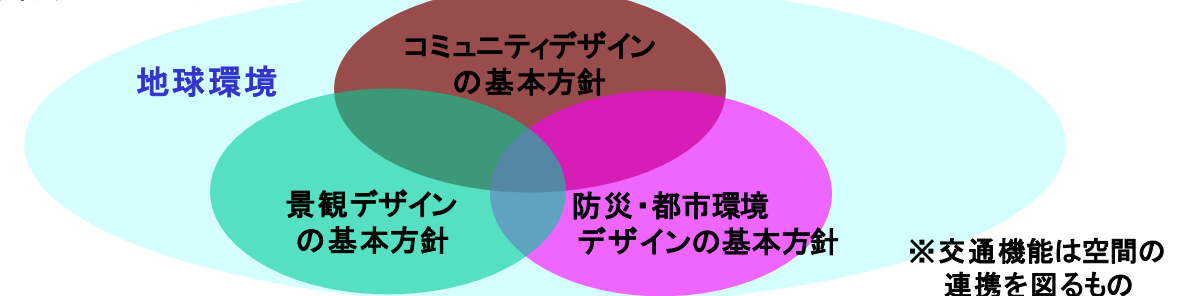
- 草津川跡地の歩んできた歴史とともに、**市民の生活や活動**が営まれてきた。
- 普段では身近に**散策ルートや、通勤、通学ルート**としても、市民の往来が見られる。
- また春には桜が咲き誇るなど**四季折々の姿**に触れることもできる、市民にとって**愛着や親しみ**が深い場所でもある。
- 「**草津宿場まつり**」等の地域活動の拠点の場としても、重要な役割を担っている。
- 草津川跡地は、**市民の笑顔、愛着**を高めるに相応しい空間であり、それらを今後末永く引き継いでいけるよう表現する必要がある。

時代背景から考える

防災・都市環境デザイン

- 先の**3.11東日本大震災**においては、死者、行方不明者を加えると2万人もの尊い命が失われ、自然の摂理にしっかりと向き合った**オープンスペースやコミュニティ**などを考慮した**まちづくり**へのさらなる転換が求められる。
- また未来の子供たちにかげがえのない**地球環境**を残すためにも、**低炭素化社会**実現に向け、**環境に配慮したまちづくり**へ向かう必要がある。
- 草津川跡地は、**安全まちづくりと低炭素化社会(エコタウン)**に寄与する相応しい空間であり、それらを今後末永く引き継いでいけるよう表現する必要がある。

<当委員会でのトータルデザインのイメージ>





<景観デザインの要素>

連続性と個性の調和

【草津川跡地の何を連続性とし何を個性として考えるか】

視点場からの見え・ビスタ形成

【遠景からの見え方、跡地空間内からの見え方を考慮】

まちのアイデンティティ形成

【市民にとっての誇りと愛着を未来へどのように繋げるか】

既成市街地の空間特性との調和

【既成市街地のまちの雰囲気との調和を考慮】

心地よさやアクティビティの創出

【心の安らぎや友人や知人との交流を楽しむためには】

通りや沿道の見せ場作り

【跡地空間に調和したにぎわい空間の雰囲気とは】

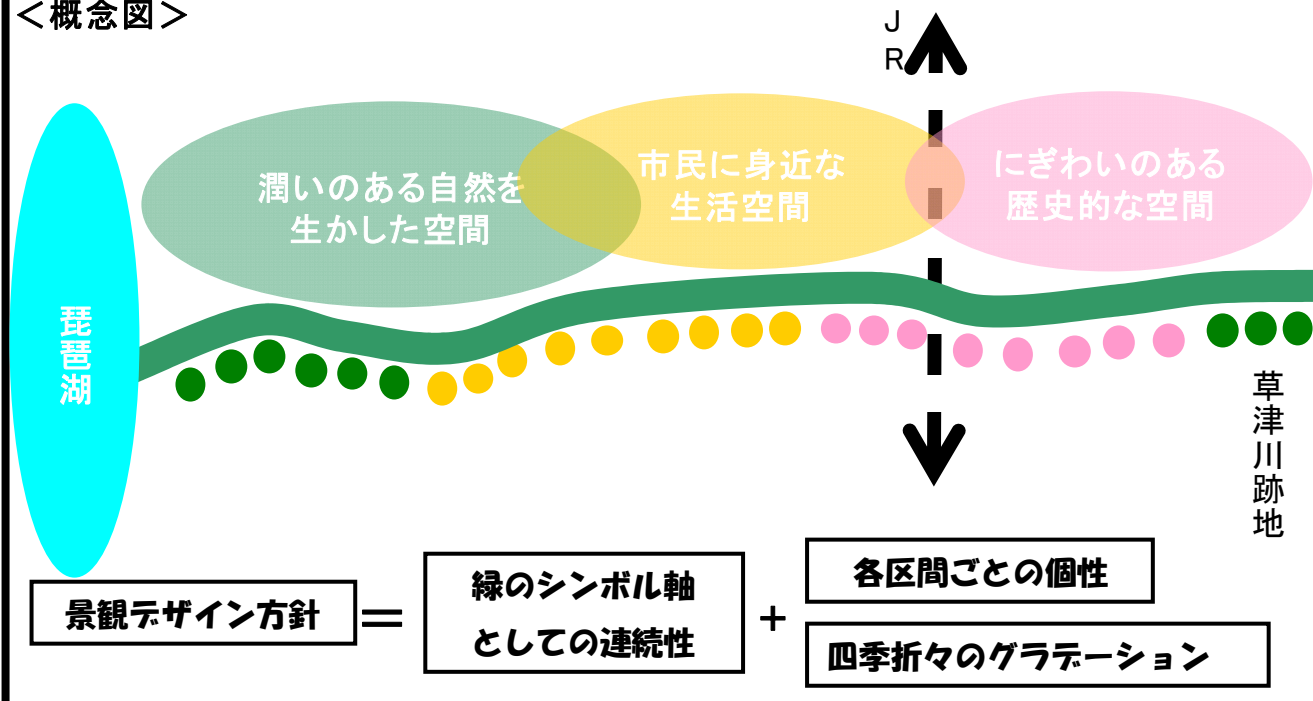
<コンセプト>

琵琶湖への変化に富んだ  
緑のシンボル軸の形成

天井川と旧街道の  
歴史の継承

緑と調和した開放感の  
あるにぎわい空間

<概念図>



【変化に富んだ緑のシンボル軸】の景観形成検討イメージ

- 街から琵琶湖までのシンボリックな緑の連続性と、各区間の個性を活かした四季折々のグラデーションを形成します。
- 堤体の歩行者道への街路灯やフットライトなどの照明による光の演出により、遠景からの幻想的で連続性のある夜間景観を形成します。



緑の連続性と季節の移ろい



緑道を彩る照明の連続性のイメージ

【天井川と旧街道の歴史の継承】の景観形成検討イメージ

- 市民のアイデンティティである天井川と旧街道の歴史を活かした景観を演出します。
- 市民の日常散策ルートでもある草津川マンポの歴史性を活かした景観を検討します。



鉄道の歴史と地形を活かした景観(NYハイライン:旧軌道敷の再利用例) ニューヨーク経済新聞HPより引用



草津川マンポのレンガ調を活かした改修例



【開放感のあるにぎわい空間】の景観形成検討イメージ

- 緑と調和した心地よいにぎわい空間の景観を演出します。
- オープンカフェ等による開放的なにぎわい空間の景観を演出します。



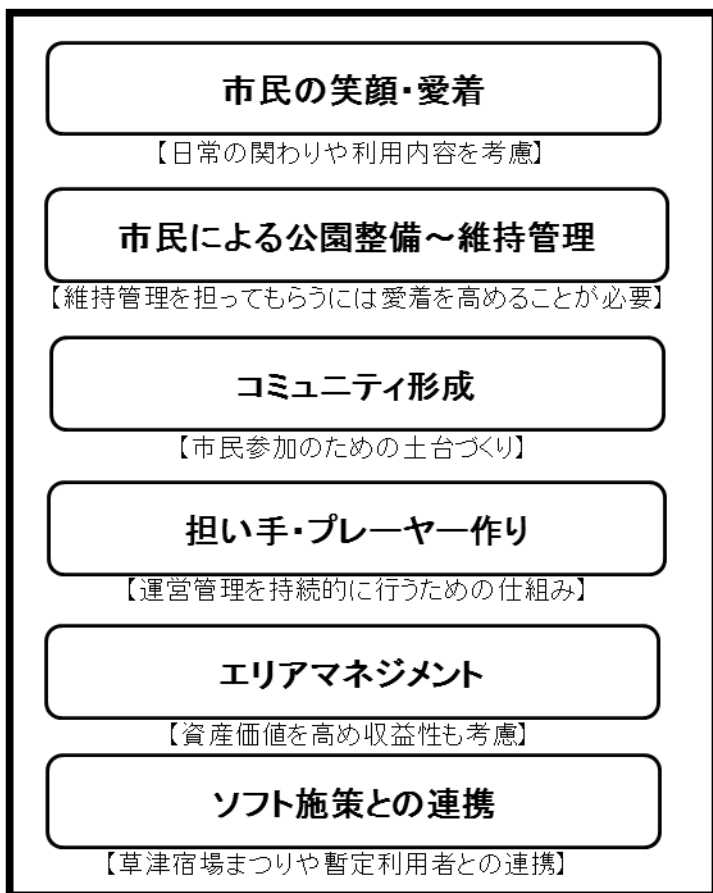
フリーマーケット等によるにぎわい



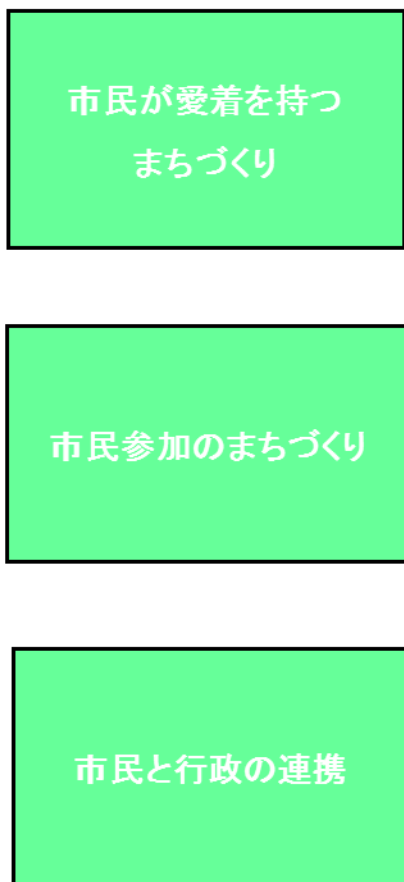
オープンカフェのイメージ



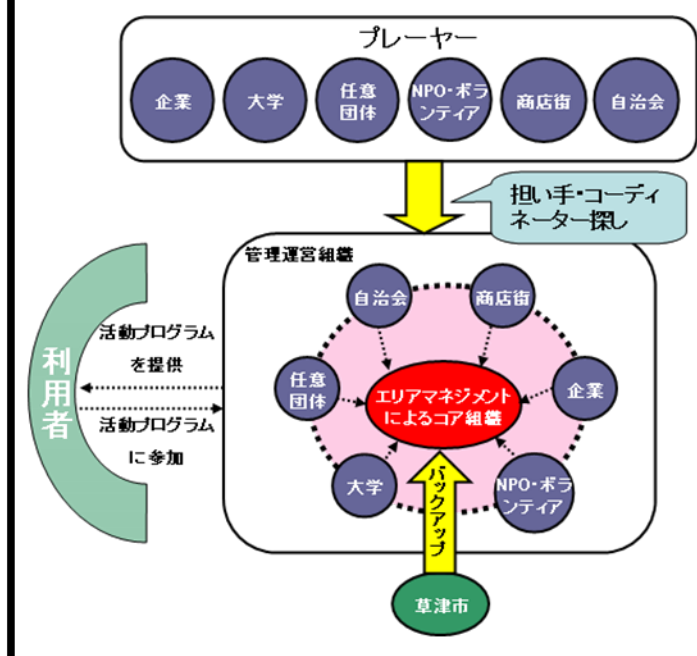
＜コミュニティデザインの要素＞



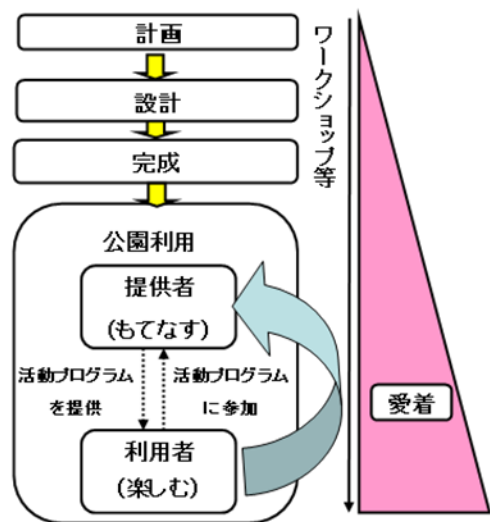
＜コンセプト＞



＜運営管理の仕組み＞



＜運営管理のプロセス＞



【市民が愛着を持つまちづくり】の検討イメージ

- 計画、設計段階から市民に入ってもらい、市民が愛着を深める仕組み作りを提案します。
- 市民シンポジウムやワークショップでの、担い手、プレーヤー作りを提案します。



ワークショップによる市民参加



子供たちの手形を入れた公園作り

【市民参加のまちづくり】の検討イメージ

- 市民団体等による資金回収と運営管理までのエリアマネジメント導入を検討します。
- 地域協定やアダプト制度を活用して、市民に担ってもらえるエリアを提案します。



ソフト施策との連携  
(草津七夕宿場まつり)



市民参加(芝貼)

【市民と行政の連携】の検討イメージ

- 市民と行政の協働による役割分担・エリアを提案します。
- 行政による指定管理者制度や助成金等の条例によるバックアップ方策を検討します。



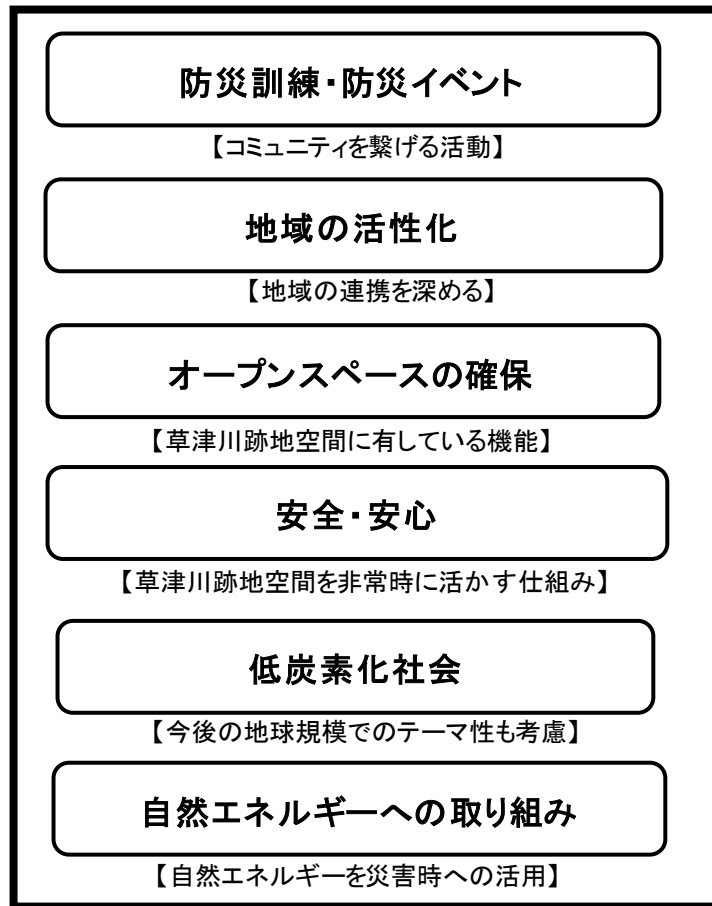
草津川跡地の状況



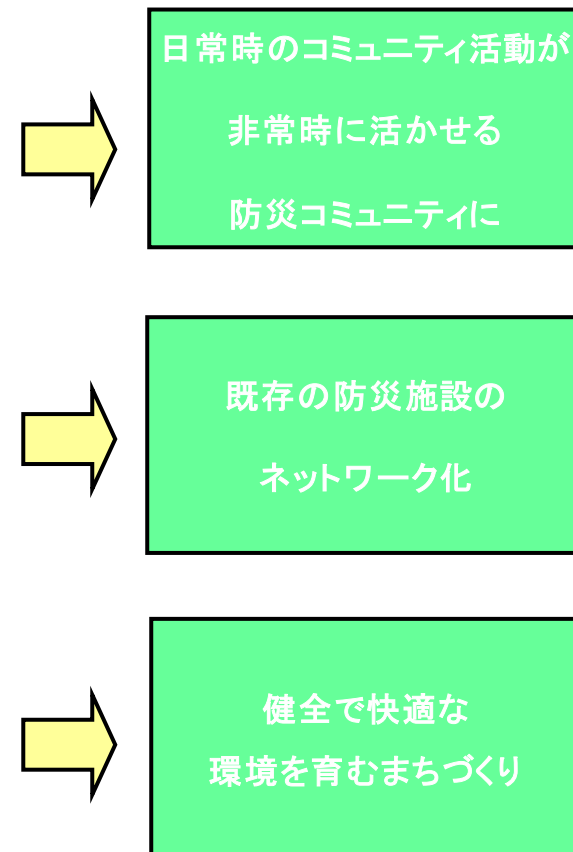
維持管理のイメージ



<防災・都市環境デザインの要素>



<コンセプト>



【防災コミュニティ】の検討イメージ

- 防災訓練や防災テント市等、個人や地域の繋がりを深める仕組みを検討します。
- 防災を通じて地域の活性化に繋がる仕掛けを検討します。



防災訓練のイメージ



イベントによる地域の活性化

【既存の防災施設のネットワーク化】の検討イメージ

- 跡地を防災空間として活用することで、既存の防災機能のネットワーク強化を検討します。
- 跡地をオープンスペースとして活用することで、非常時での安全・安心へと繋がります。



防災機能のネットワーク化のイメージ



オープンスペースのイメージ

【健全で快適な環境を育むまちづくり】の検討イメージ

- 子ども達と一緒に学ぶ環境学習の場づくりを検討します。
- 太陽光や風力など自然力を活用し、低炭素化まちづくりのリーディング事業を検討します。

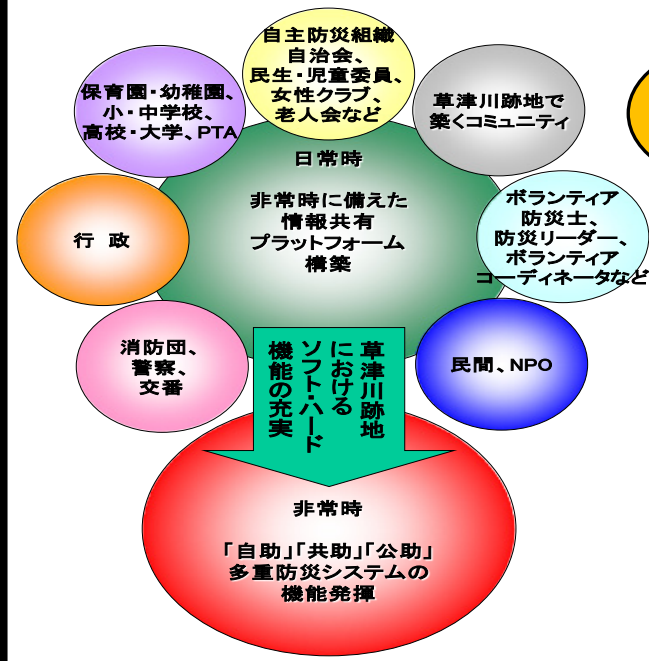


雑木林探検とどんぐりポットづくり



管理棟屋根のソーラー発電と緑化屋根

<防災デザインの概念図>



<都市環境デザインの概念図>

